

えぐちーず (部内資料)

連絡先 日本共産党区議団控室 世田谷区世田谷 4-21-27 区役所第2庁舎内

Tel 5432-2791 fax3412-7480 メール eguchi@jcp-setagaya.jp

ブログ <http://e51d41egc.blog137.fc2.com>

ホームページ <http://egucheese.net/link>

2012年5月14日



5月11日(金)区議団は、「さよなら原発!世田谷の会」と川場村ふるさと健康村施設の放射線測定を実施しましたので、ご報告します。

区議団と「世田谷の会」等の 区民の活動が区を動かす! 一さらに除染範囲拡大 除染工事予算が約3000万円へ

先週の「えぐちーず」で、区が「子供たちの行動する場所を0.23マイクロシーベルト/h以下にする」ため、除せん工事を実施することをご報告しました。

その後、「世田谷の会」が区に申し入れをしたこともあり、除染範囲が拡大し、予算が約3000万円に拡大しました。(詳細は、区ホームページ参照)

今回、除せん工事の状況や工事後の放射線量確認のため、調査を行いました。

35カ所で放射線測定実施

私たちは、区が除せん工事をした場所を中心にふじやまビレジ21箇所、なかのビレジ14箇所を地表と高さ1mで測定しました。

測定器械は、堀場製作所Radi PA-1000です。(区所有と同機種)

当日は保坂区長も工事確認のため、川場村を訪れていました。

当日の様子や結果などについて、「さよなら原発!世田谷の会」会員の砧在住 竹内 逸郎氏が報告文書を寄稿してくださいました。

竹内氏は会のメンバーとして、これまで世田谷清掃工場や区内各地また区立小の保護者と共に川場村を数回訪れ、調査活動を行っています。

次のページで全文をご紹介します。



↑11日の放射線測定の様子

放射性物質による汚染状態を 元に戻すことの難しさ！！

2012年5月14日

さよなら原発！世田谷の会会員
砧在住 竹内 逸郎



5月11日、前日から降り出した雨で気温も低く震え上がりそうになる中、日本共産党世田谷区議団の方々4名とともに「さよなら原発！世田谷の会」から2名が参加し、川場区民健康村施設及び周辺の空間放射線量測定と土壌・落ち葉採取をしました。

除染実施箇所や手つかずの箇所も丹念に測定された皆様、本当にお疲れ様でした。

放射線量測定と土壌・落ち葉採取の目的は次の通りです。

1. 5月7日付けで世田谷区ホームページ上に公表している「川場区民健康村施設及び周辺における放射線量測定結果」についての確認

2. 5月1日に世田谷の会が提出した区長への要請書（施設周辺の落ち葉除去・表土の入替を求める要請）をもとに、ふるさと交流課との打ち合わせで除染区域の拡張が示された箇所の除染実施状況の確認

3. 川場移動教室実施に向け区が実施した除染範囲の妥当性の確認

今回私たちが確認した区が行った除染箇所については、世田谷区がHP上に公表した「川場区民健康村施設及び周辺における放射線量測定」に示されているように、除染目標値である $0.23\mu\text{Sv/h}$ 未満と改善されていましたが、1月16日に行った世田谷区砧清掃工場周辺の測定で得られた地上1m付近の空間線量率 $0.06\sim 0.10\mu\text{Sv/h}$ と比べると高いものでした。

また、除染作業箇所から除外されているが、子ども達が立ち入りやすい箇所



（宿舎の前庭・落ち葉の堆積している斜面等）の地表付近では、本年4月19日に私たちが区職員と共に測定した時と同じように $0.58\mu\text{Sv/h}$ 等と高い値が計測されました。

これらのことから、世田谷区が行った「川場区民健康村施設及び周辺」の除染範囲だけでは、子ども達の内部被ばくを防止する観点からすると川場移動教室を実施するには不十分であろうと考えますので、世田谷の会会員として、除染範囲をさらに拡張するよう区に要請していきます。

昨年3月12日から15日にかけて発生した福島第1原子力発電所1-4号機水素爆発事故からすでに1年以上経過していますが、地表に降り注いだ放射性物質は未だに存在しており、川場区民健康村施設及び周辺の空間線量率を高くしている原因物質は、4月24日に私たちが行った落ち葉に付着している放射性物質の核種分析結果から、事故以前には存在しなかったはずの放射性セシウム（セシウム134, 137）であることもわかっています。

この事実は、区が除染を実施した限定的な箇所ですら表土撤去・転地・高圧洗浄等の除染方法では、降り注いだ放射性物質を完全に除去し事故以前の状態に戻すことが非常に難しい、ほとんど不可能に近いことであり、ましてや除染の手も入っていない森林や周辺地域ではこれからも放射性物質による高い汚染状態が続いて行きます。

放射性セシウム137の半減期が30年であることを考えると、一度放射性物質で汚染された場所を汚染前の状態に戻すことの難しさを痛感させられた測定活動でした。

以上